



秋の果物

第172回例会 1962.10.30(火) 晴 白鬘社会員

長谷川氏絵

例会場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)

事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

○卓話 釣道楽 鶴岡釣クラブ会長 工藤武氏

○出席報告

本日の出席数 $\frac{36}{44}$ 名
出席率 81.82%

欠席者 五十嵐君、金井(勝)君、小池君、吉村君、岡崎君、板垣君、張君、渡部君

前回の出席率 77.27%
修正出席数 $\frac{38}{44}$ 名
修正出席率 86.36%

ミーアップ 金井(勝)君 (山形R.C.)
小花君 (仙台R.C.)
鈴木君 (酒田R.C.)
荘司君 (新庄R.C.)
小花君 (箱根R.C.)
広瀬君 (大阪北R.C.)

○司会 佐藤会長

○ソング それでこそロータリー リーダー 広瀬君

○ゲスト 工藤武君

○ピジター 高野豊一君 (酒田R.C.)

○卓話 釣道楽 鶴岡釣クラブ会長 工藤武氏

私は釣をやりはじめて、40年位もなりますが、ここには私よりも経験の多いベテランの前ではばかりの様ですが、私が市のクラブの会長を務めている関係上一言お話を申し上げます。

毎年此の庄内浜の海岸で磯釣の事故を出して、何人かの人を犠牲にしているようです。昨年度から各方面の協力を得て、鶴岡海岸磯釣安全協議会と、うものを発足して、海での犠牲者を1人でもなくそうと運動をしております。

事故はその人の不注意からおこるもので、釣は楽しいレクリエーションでなければならぬと思う。又釣は何時何処でも釣れるというわけではない。浪の具合とか、天候の具合、潮具合等色々の条件があります。

然し魚を釣るという事は、運というものがある様ですとかく魚に糸をきられるという事は釣のかまえた等が大切だと思う。今年度からは、僅かの子算で危険な場所や、危い岩等に標識等を取り付けて、釣の安全をはかりたいと思う。

此の鶴岡は全国的に見ても非常に釣が盛んで、人に云わせると鶴岡の釣形は殿様釣だ等と批評しています。たしかに、まき餌等700~800円もかけて、それに足代を見ると1,000円位もかかるので、それで殿様釣だと云うのでしよう。竿等も此処独特のもので楽しんでいるようです。今は乗物等に持込の便利なグラス竿とか、ステッキ竿等非常に軽くて三間位の竿でも片手でもてるので、利用度があるようです。最近では、どこの職場でも釣大会等を盛んにやっていますが、その採点方法等は、釣上げた魚はどんな小さい魚でも点数で採点しているようです。

此の辺では2才、黄鯛、黒鯛等を基準にして楽しんでいるようですが、何んといつても糸のひきかたの楽しめるのは黒鯛でしょう。中央に行きますと、石鯛とかかん鯛等を主としているようです。

とにかく磯釣は危険ですので、ロータリーの皆様方も釣安全協議会に御協力願いたい。

○一日講習の感想 荘司君

カウンセラー中村米平さんのお話の中の1部の内、自分の感じた事について10分間位そのお話に対して自分の

感想と、確信をもまぜて申し上げて見たいと思います。

奉仕の理念、我々は日常生活に於いてロータリークラブのモットーである、奉仕の理想に合致しているかを常に反省する事。

それは新聞の種になりたい等の野心名譽的のものであってはならない。それで真の奉仕とは、自分を無視して世の為、人の為に努力する事である。それが又、ひいては結局自分の幸福となつて巡り来る事である。この話を聞いて、すぐ感じました事は、我が国には先に明治天皇が發布されました教育勅語の中に既に「公益衆に及ぼす」というお諭しがありましたが、之等はロータリー精神の真髓を教えられたものであり、ロータリアンでない人でも我々以上の立派な奉仕の精神に徹した人々が沢山いる事を再認識する要のある事を、深く確認した次第であります。

以上をもつて、ロータリークラブは皆この様な人々の結集である為、広く世の信望を克得、過去も現在もドンドン発展し、拡大しつつあるのであると申されました。そしてロータリアンは各地に又職域に成功して行くのであると申されました。然らば完成したロータリアンになるには、やはり各種の会合に出席して勉強する事だと申されました。

それに対し、私は、常に次の事を実践しているものであります。其の場、其の場で一つでも良い事を聞いた時は良く之れを批判吟味し、良いと思う事は、それを早く自分のものにする、そうして之れを実行に移す事であると私は思いますし、だから各種の会に出席する事は、あえてロータリーの席上のみでない事をも確信する次第であります。そうして、会合を重ねる事により各種の人々と知り合つて、金で買う事の出来ない其の場の雰囲気接する事も出来る、之れが会合での出席の大目的であり又以つて大きな収穫でもあるのであると共に、更にこうした席上で獲得した立派な主旨、行いを奉仕、実践する事が其の人の第二の天性になつた時こそ此の人は、中村カウンセラーの云う、完成したロータリアンであり、本年度国際ロータリーのR I会長の申された良く勤めるものは、良く人に知られる、其れが又巡々つて自分の幸福となる、更にR I会長の強調する「内部に火を燃やせ」の主旨にも合致する事と深く感ずると共に、R I会長の本年度の教書に対し衷心より敬意を表する次第であります。

尚私の担当している職業分類の事について種々質疑応答の中で、目下各クラブ共会員の募集中であつた様でしたが、私が発言して、会員の増強に当つては、なるべく奉仕の精神の特性であり、実践者を推し度いものである。単にクラブの経営資金獲得の為に未充填職業分類にあてはまれば良いと云うのでなく、現在も従来も同様である事を主張致しました。

すぐ、岩手かどこかの人が立つて、私の主旨に反対してどの様な人でもロータリーに入れて、良い奉仕者になる様な指導育成して行つたらとの発言がありました。それは議長の前席にいた中村カウンセラーから、それは不可であると申されました。

◎ロータリー財団週間;

THE ROTARY FOUNDATION WEEK;

1962~1963年間のロータリー暦の中で、特別な儀式の最初のもは、11月11日から11月17日までの、ロータリー財団週間でありましょう。クラブは伝統的に、ロータリー財団に対して、彼等の注意をはらつています。

そしてその都度活動しています。クラブの儀式に対する暗示は、時の心付け、TIM ETIPS NO. 2 に書かれてあります。それはロータリークラブの財団委員長にお送られましょう。

この財団週間は、財団に関して、クラブへ、ロータリー財団奨学資金の候補者になり得るものを、クラブのロータリー例会に出席させたり、或いは炉会ファイアサイド、ミーチング、に出席をさせたりして、ロータリー財団の紹介をするのに、よい機会であります。

この儀式は、ロータリー財団は何をするものかに就いての事を知らせる、一つのよい機会を備えています。それはよりよき国際理解をすることと異つた国々の人々の間の国際親善関係をはかつたり、又、クラブの一部分が財団奨学資金の目的をこめたものであることを、わからせる一つのよい機会であります。

スピーカとして、現在或いは過去フェロであつた奨学資金学生の利用は、市民の団体や他の地方的な群集にお話しする前に、その地方地方の高等学校、或いは大学にロータリー財団奨学資金に対する団体の解明要素として効力のある方法であります。

ロータリーの創設者、ポールハリスは次のように云つた:「国際理解の増進」には、ロータリアンでない人もロータリアンと同様に、同じく多くの人々に達することが必要重要であります。そして又、個人的な考え方で行けば、あなたは多くの人々を得ることが出来ません。(即ちただロータリアン同志の個人的なお考えであればとうてい多数を得ることが出来ません。)「ロータリー財団週間」はこの儀式の間にこのような特別な種類で(この特種な方法で)ロータリアンでない人々に、多く国際理解をすることに到達することへのよい機会であります。

○幹事報告

- 会報到着 寒河江、湯沢、釜石、青森各R.C
- 例会場変更 村上R.C 11月1日 於 鷹の巣温泉
- 大曲R.Cより「クラブの歩み」が送られて参りました。次回の例会に回覧致します。

○本日の献立

刺身 鯛、えび あんかけ 鮭 味噌汁 鱈